

入院診療計画書

病棟: _____ 様

治療方針: 胃切除術 A Ver.1

年 月 日

特別な栄養管理の必要性: 有・無
推定される入院期間: 9~16日間

主治医:

担当看護師:

患者様サイン欄:

ご家族サイン欄:

	入院日～手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目～退院日
達成目標	・手術の必要性を理解し、不安なく手術を受けられる		・疼痛コントロールが実施できる	・病棟内歩行ができる	・術後合併症の兆候がみられない		・食後の腹部傷病がみられない		・退院後の留意点について理解できる
安静度 リハビリ 退院	・病棟内を自由に歩くことができます。		・症状に合わせて体を動かしていきます。	・初回歩行時は、看護師が付き添います。その後は自由に歩けます。 ・回復にむけてなるべく体を動かしていきます。 ・部屋を移動します。	・院内を自由に歩くことができます。				・症状を確認し、問題がなければ退院ができます。
食事	・昼食までソフト食が摂れます。 ・水分(水、茶)は摂れます。	午前手術なら朝6時まで 午後手術なら朝10時まで 水分は摂れます。		・手術後、医師の許可が出てから水を口に含むことができます。 むせなければ、水を飲むことができます。	・昼食からシトラスウォーターが摂れます。	・昼食から流動食が摂れます。	・昼からソフト食が摂れます。	・昼から全粥食が摂れます。	・手術後6日目に栄養指導があります。 ・手術後7日目より常食が摂れます。
注射・薬剤		・医師から指示された薬のみ、少量の水で内服することができます。	・点滴があります。 ・痛み止めと胃薬を飲みます。						
検査				・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・採血があります。	
処置	・看護師がお臍のそじをします。	・手術室に行く前に、全ての衣類を脱ぎ、T字帯、弾性ストッキング、術着を着用します。	・マスクを着け、酸素吸入を行います。 ・手術室で痛みどめの管を背中に入れます。 ・心電図モニターをつけます。 ・鼻から管が入っています。	・歩行後、弾性ストッキングを外します。 ・心電図モニターを外します。		・背中痛みどめの管を抜きます。			
清潔	・シャワーをしていただきます。 ・手術に備え、歯磨きをしてください。	・朝の歯磨きを必ずしてください。		・看護師が蒸しタオルで体を拭きます。		・背中痛みどめの管が抜けた後、シャワーができます。			
排泄	・歩いてトイレに行くことができます。		・手術室で尿を出すための管を入れます。	・歩くことができれば、尿管を抜きます。 ・尿管を抜いた後は、歩いてトイレに行くことができます。(尿管を再度入れることもあります。)	・歩いてトイレに行くことができます。				
患者様及びご家族への説明	・麻酔科医師による手術前の診察があります。 ・看護師が入院後の生活、入院・手術に必要な物品の説明をします。		・医師から手術結果についての説明があります。		・パンフレットの説明があります。				・医師が退院について説明します。 ・薬剤師が退院後の薬の内容と管理について説明します。 ・看護師が退院後について説明します。

注1) 病名及び治療内容等は、入院時に考えられるものですので、検査・治療を進めていくにしたがい変更することがあります。

注2) 入院期間、表記の日時については入院時での予定です。